

2020年12月15日（水） 10時～11時 福井工業大学での記者会見、ご挨拶（抜粋）

● **福井工業大学 学長**

「ふくいPHOENIXハイパープロジェクト」宇宙研究推進本部長

教授 掛下知行（かけしたともゆき）

「ふくいPHOENIXハイパープロジェクト」を大きく展開するにあたり、JAXA様と共同研究について、発表する機会を得て、大変光栄です。このプロジェクトは、2019年度終了しました文部科学省私立大学研究ブランディング事業において採択された「ふくいPHOENIXプロジェクト」の後継プログラムです。「ふくいPHOENIXハイパープロジェクト」では、宇宙活動の発展に貢献する人材育成を目的に宇宙研究推進本部を設置し、(1)宇宙研究、(2)観光文化、(3)地域振興の3本柱をさらに展開します。

今後、あわらキャンパスに口径16.5mのパラボラアンテナを新設し「月探査用衛星地上局」の開発と性能実証の研究に関し、JAXA宇宙科学研究所と協力して行います。さらに地球周回軌道との通信を可能にする口径3.7mのパラボラアンテナも新規整備します。このような規模と性能を有する衛星地上局は、大学・民間では国内唯一であります。

将来的には、本学の地上局が国内はもとより、世界の地上局と連携を図り、世界の宇宙開発および宇宙産業に貢献する人材の育成拠点を目指します。

JAXA様の「はやぶさ2」の大成功からも分かりますように、私たち人類の文明は、星空にインスパイアされて発展してきました。宇宙に興味ある若者が本学に集ってくれることを願います。

● **国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）**

宇宙科学研究所副所長

藤本正樹（ふじもとまさき）様

今日の話のキーワードは4つ。(1)深宇宙用のアンテナ、(2)月探査、(3)超小型宇宙機、(4)2022年

いま世界全体の探査の大きな流れは、米国が主導するアルテミス計画(月探査)に全世界が協力することです。将来は火星探査も見据えます。最終目標は有人探査ですが、大きな話だけに飛びつくのではなく、超小型機を打ち上げて、頻度を上げてパートナーを獲得していくことで、様々な人が参加できる枠組みことも意識されています。

福井工大が目指すのは、まさに世界の潮流に乗ったものです。

このような世界の流れの中でJAXAは、月探査においてはNASAと協力して、できるだけいろいろな機会を作っていきます。エクレウスもそのひとつです。はやぶさ2の次の火星衛星探査計画MMXでは火星衛星フォボスからのサンプル帰還を行い、さらに先の火星探査へのステップとします。

このような大きな流れを考えると同時に、現場力を身につけた若者の育成がとても大事だと考えます。そこにおける超小型機の活用方策という意味において、福井工大がチャレンジしている今回のお話は、まさに時代の最先端を目指していること。これまでも長い時間をかけてきていること、宇宙の現場を作り出していることは、JAXAとしても歓迎しています。